



カフェラ・ポエムお台場

GLOBAL-DINING GZ

決算説明会資料

2023年12月期通期

株式会社グローバルダイニング（東証スタンダード 7625）

2024/2/21

Contents

2023年12月期通期

I. 業績サマリー

• (連結) 決算ハイライト	4
• 会社別実績概要	5
• (連結) 営業利益（コスト）増減要因	6
• (連結) 貸借対照表の概要	7
• (連結) キャッシュ・フローの概要	8

II. 事業計画サマリー

• (連結) 2024年12月期 通期計画	10
-----------------------	----

III. 上場維持基準の適合状況について

11

IV. 2023年の概況

• コロナ前の2019年からの連結業績推移	13
• (国内) 売上高前年対比率 月次推移	14
• (国内) 客数・客単価の前年対比率 月次推移	15
• 2023年 出退店等	16
• (国内) 業態別業績	17
• (米国子会社) 業態別業績	18
• 2023年の主な取り組み	19

V. 今後の取り組み

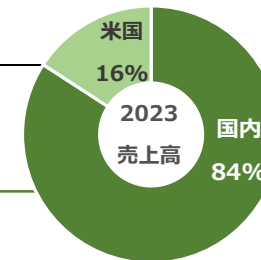
• 2024年の取り組み	21
• 新店概要（国内）	22
• 新店概要（米国）	23

【参考資料】

• 2023年12月期 赤字店舗一覧	25
• (連結) 展開コンセプト	26
• (連結) 売上高・営業利益推移	27
• (国内) コンセプト別 売上高5期推移	28
• (国内) コンセプト別 営業利益率5期推移	29
• (国内) 損益計算書概要	30
• (米国子会社) 損益計算書概要	31
• 会社概要	32
• 注意事項	33

I. 業績サマリー

(連結) 2023年12月期 決算ハイライト



連結

(単位: 百万円)	2022年 通期実績	2023年 通期実績	前年対比	2023年 通期計画	計画対比
売上高	9,558	11,090	+16.0%	10,983	+1.0%
売上原価 ※	8,361	9,282	+11.0%	9,326	▲0.5%
売上原価率	87.5%	83.7%	▲3.8pt	84.9%	▲1.2pt
販管費 ※	972	1,075	+10.6%	1,087	▲1.1%
販管費率	10.2%	9.7%	▲0.5pt	9.9%	▲0.2pt
営業利益	224	732	+226.1%	569	+28.6%
営業利益率	2.4%	6.6%	+4.3pt	5.2%	+1.4pt
経常利益	297	727	+144.4%	575	+26.4%
当期純利益	222	847	+280.9%	597	+41.7%
為替レート (USD/JPY)	132.70円	141.83円		140.00円	

■ 売上高 16.0% 増

インバウンド需要の増加や価格改定、国内経済正常化による客数増加等で増収9期ぶりに連結売上高100億円を上回った

■ 売上原価率 3.8ポイント 改善

国内では食材価格の値上がりや増収による売上歩合賃料の増加等、米国では従業員時給の引き上げもあったが、国内大幅増収の影響で売上原価率は改善

※労務費、光熱費、家賃、減価償却費など店舗運営に関わる費用は売上原価に計上。販管費は主に本部経費

■ 営業利益率 4.3ポイント 増

米国の営業損失を国内業績でカバー

■ 当期純利益 5.3ポイント 増

繰延税金資産の追加計上(国内業績好調のため)で法人税等調整額▲140百万円(利益)を計上

会社別実績概要

国内

(単位：百万円)	2022年 通期実績	2023年 通期実績	前年対比
売上高	7,542	9,330	+23.7%
営業利益	137	786	+473.8%
営業利益率	1.8%	8.4%	+6.6pt
当期純利益	126	889	+602.7%

米国子会社

(単位：百万円)	2022年 通期実績	2023年 通期実績	前年対比
売上高	2,015	1,760	▲12.7%
営業利益	87	▲53	-
営業利益率	4.3%	▲3.1%	▲7.4pt
当期純利益	95	▲42	-

為替レート
(USD/JPY) 132.70円 141.83円

※上記は連結修正前の会社別数値です。

■売上高 大幅増収 (既存店+24.9%)

インバウンド需要増加により権八業態(和食)が大幅増収(前年比+54.8%)

ラ・ボエムやモンスーンカフェなど、その他の主要業態も人流回復により増収

■営業利益率 6.6ポイント 増

食材価格の値上がりや残業代の追加支払い、増収による売上歩合賃料の増加もあったが、大幅増収の影響で増益

1月～12月単月でそれぞれ営業黒字を達成。
(例年では1月と2月は閑散期のため赤字傾向)

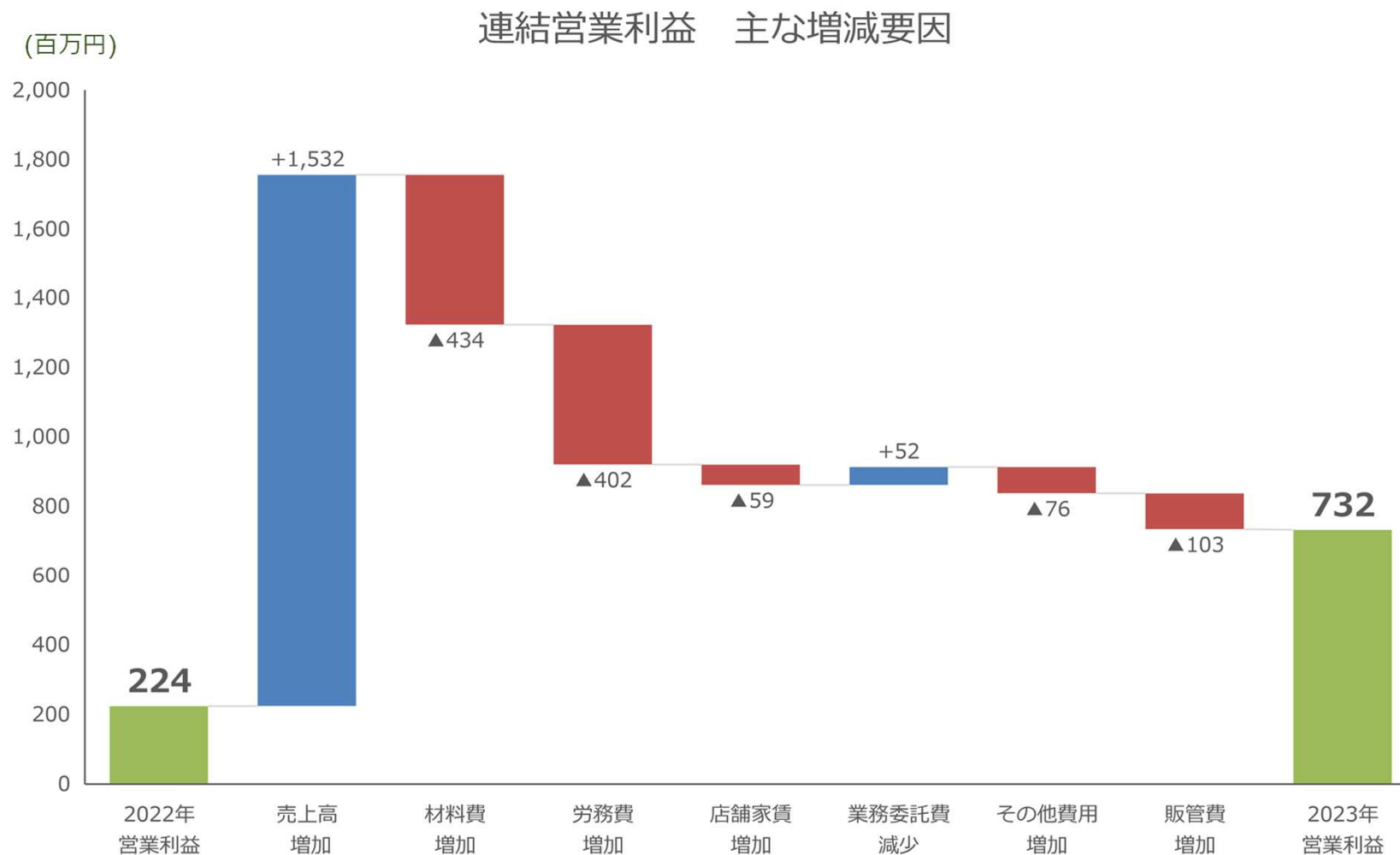
■売上高 減収

第1四半期の天候不順、公共エリアでの大規模な屋外営業の可能期間が終了した影響から減収

■営業利益率 7.4ポイント 減

減収の影響が大きく、売上原価率が悪化、従業員の最低時給引き上げの影響もあり労務費率も悪化
新店準備費用の計上などもあり、本部コストを補えず赤字に

(連結) 営業利益 (コスト) 増減要因



(連結) 貸借対照表の概要

(単位：百万円)	前期末 2022年12月末	当四半期末 2023年12月末	増減
資産合計	7,238	8,560	+1,321
流動資産	1,840	2,183	+342
（内 現預金）	(1,108)	(1,180)	(+72)
固定資産	5,397	6,377	+979
負債合計	3,635	3,972	+336
（内 有利子負債）	(1,770)	(1,722)	(▲48)
流動負債	1,777	1,593	▲183
固定負債	1,858	2,378	+520
純資産合計	3,603	4,588	+985
資本金	43	44	+1
資本剰余金	2,143	2,144	+1
利益剰余金	1,269	2,117	+847
為替換算調整勘定	121	244	+123
その他	25	36	+10
負債・純資産合計	7,238	8,560	+1,321
流動比率	103.5%	137.0%	+33.5pt
自己資本比率	49.5%	53.3%	+3.8pt

■ 流動資産・固定資産

現預金：有利子負債の返済や設備投資による支出もあったが、設備資金の新規借入や国内業績の好調で**72百万円増加**

使用权資産(固)：米国新店の物件契約に伴い**292百万円増加**

■ 流動負債・固定負債

有利子負債：新規借入による増加と通常返済による減少で**48百万円減少**

リース債務(流/固)：米国新店の物件契約等で、**367百万円増加**

■ 純資産

純利益により**利益剰余金が増加**

(連結) キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)	2022年 通期	2023年 通期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	▲52	815	+867
投資活動による キャッシュ・フロー	▲299	▲670	▲371
財務活動による キャッシュ・フロー	▲444	▲97	+346
現金及び現金同等物 に係る換算差額	52	24	▲27
現金及び現金同等物 の増減額	▲742	72	+815
現金及び現金同等物 の期首残高	1,850	1,108	▲742
現金及び現金同等物 の期末残高	1,108	1,180	+72

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

国内好業績の影響が大きく、
815百万円のキャッシュイン

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

国内新規事業の着工金、米国新店舗の工事費用、
既存店の設備工事等で670百万円のキャッシュアウト

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

設備資金の為の新規借入、銀行借入金の通常返済等で
97百万円のキャッシュアウト

Ⅱ. 事業計画サマリー

(連結) 2024年12月期 通期計画

連結

(単位：百万円)	2023年 通期実績	2024年 通期計画	増減
売上高	11,090	11,650	+5.0%
売上原価 ※	9,282	9,983	+7.5%
売上原価率	83.7%	85.7%	+2.0pt
販管費 ※	1,075	1,114	+3.6%
販管費率	9.7%	9.6%	▲0.1pt
営業利益	732	553	▲24.5%
営業利益率	6.6%	4.7%	▲1.9pt
経常利益	727	549	▲24.5%
当期純利益	847	535	▲36.8%
為替レート (USD/JPY)	141.83円(実績)	145.00円(予想)	

■ 売上高

【国内】

インバウンド需要や経済正常化による客数増加、
価格改定等で増収見込み
新規事業の宿泊複合施設は年内オープン予定だが、
売上高は保守的にゼロを見込む(コストのみ発生)

【米国子会社】

既存店2店舗は保守的に見積もり減収予想だが、
新店舗オープンにより全体では増収見込み

■ 売上原価(コスト動向)

【国内】

増収により既存店の労務費率・固定費率は改善予想だが、
宿泊複合施設の开店費用※等で売上原価率は悪化見込み
※待機人件費、採用費、備品費等で110百万円程度(概算)

【米国子会社】

既存店減収による影響、新店舗の开店費用※で悪化見込み
※待機人件費、備品費等で47百万円程度(概算)

Ⅲ. 上場維持基準の適合状況について

<2022年12月末時点>

	株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式比率
当社の状況 (基準日時点)	3,396人	24,850単位	7.9億円	23.9%
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25%
適合に向けた 計画期間			2024年12月末	2024年12月末

(注) 当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況をもとに算出を行ったものです。

■ 東証スタンダード市場における

- ・ 流通株式比率
- ・ 流通株式時価総額 の上場維持基準において適合を目指す



■ 2023年11月7日に公表

- ・ 当社代表が保有する当社株式のうち30万株（発行済株式数の2.89%）の市場売却を進める
- ・ できるだけ市場に影響を与えないよう約1年間かけて売却していく方針

■ 2024年2月19日に変更報告書を開示（EDINET）

- ・ 2024年2月9日までに96,300株（発行済株式数の0.93%）約定成立

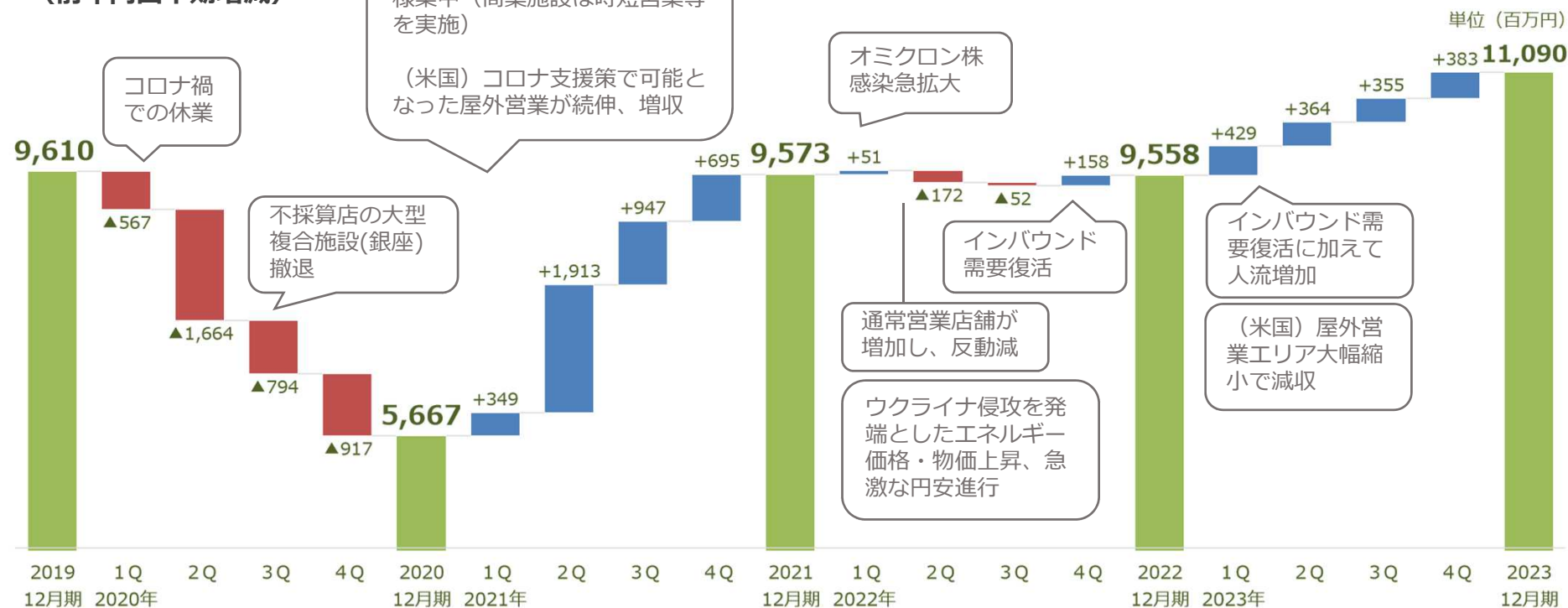
(参考) 2024年2月9日約定成立後の当社代表の発行済株式数に対する所有割合
直接所有59.67%、合算対象分13.66% 計 73.33%

IV. 2023年の概況

コロナ前の2019年からの連結業績推移

連結売上高推移

(前年同四半期増減)



参考：四半期連結業績変動

単位 (百万円)

四半期	2019年12月期実績				2020年12月期実績				2021年12月期実績				2022年12月期実績				2023年12月期実績			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績
売上高	2,265	2,418	2,352	2,574	1,697	754	1,558	1,656	2,047	2,667	2,506	2,351	2,099	2,494	2,454	2,509	2,528	2,858	2,809	2,893
営業利益	▲61	56	▲87	132	▲338	▲515	▲250	▲71	196	263	206	61	▲44	66	▲16	219	74	190	143	323
店舗数	48	48	49	49	48	47	43	43	43	42	44	45	46	46	46	46	45	45	45	45

ラグビーワールドカップ特需

インバウンド需要消滅

インバウンド需要復活

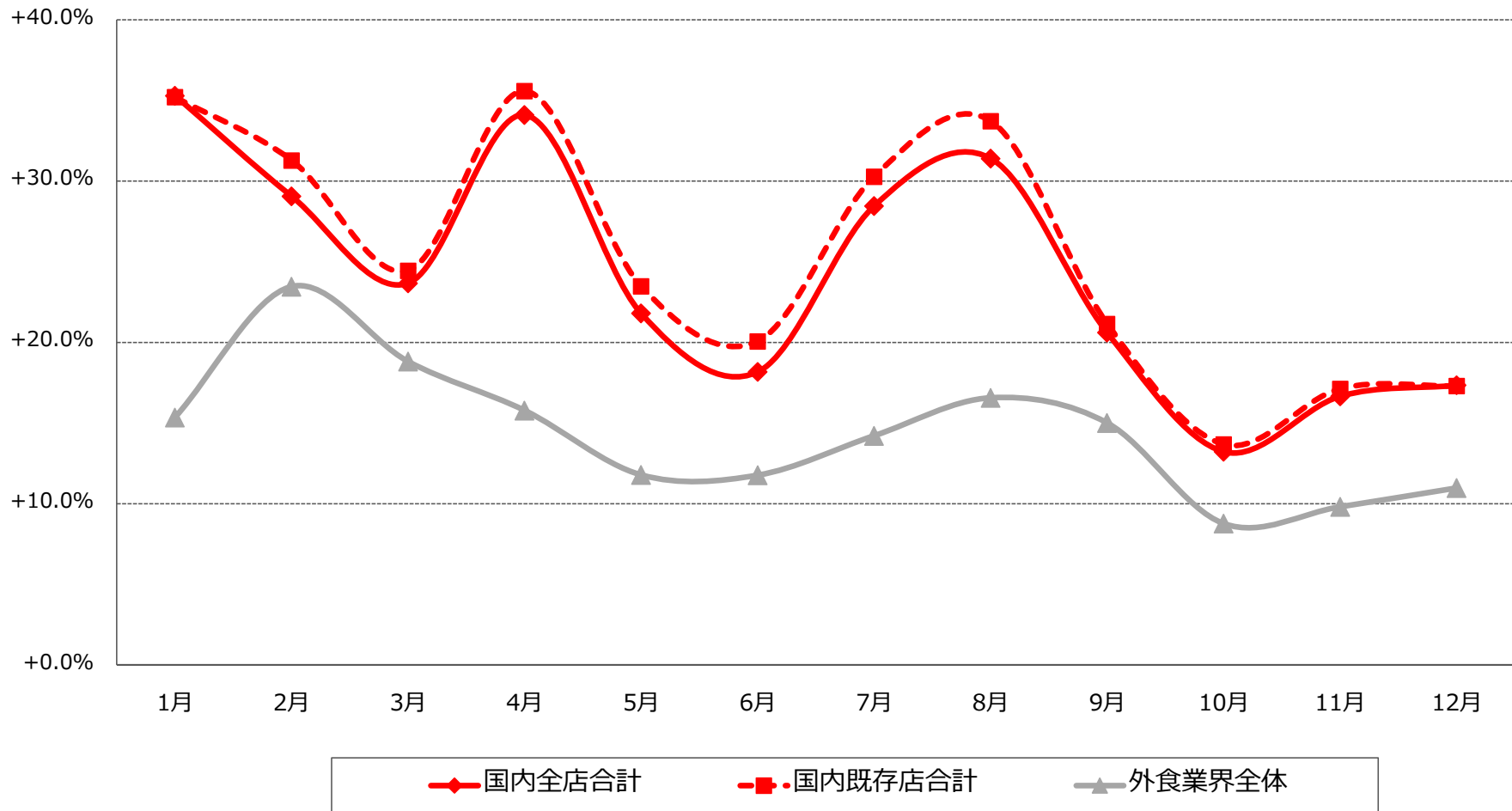
米国屋外営業続伸

原材料・エネルギー価格上昇

円安進行	換算レートUSD/JPY	109.56	103.50	110.58	115.02	136.68	132.70	144.99	141.83
------	--------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

(国内) 2023年 通期 売上高前年対比率 月次推移

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。

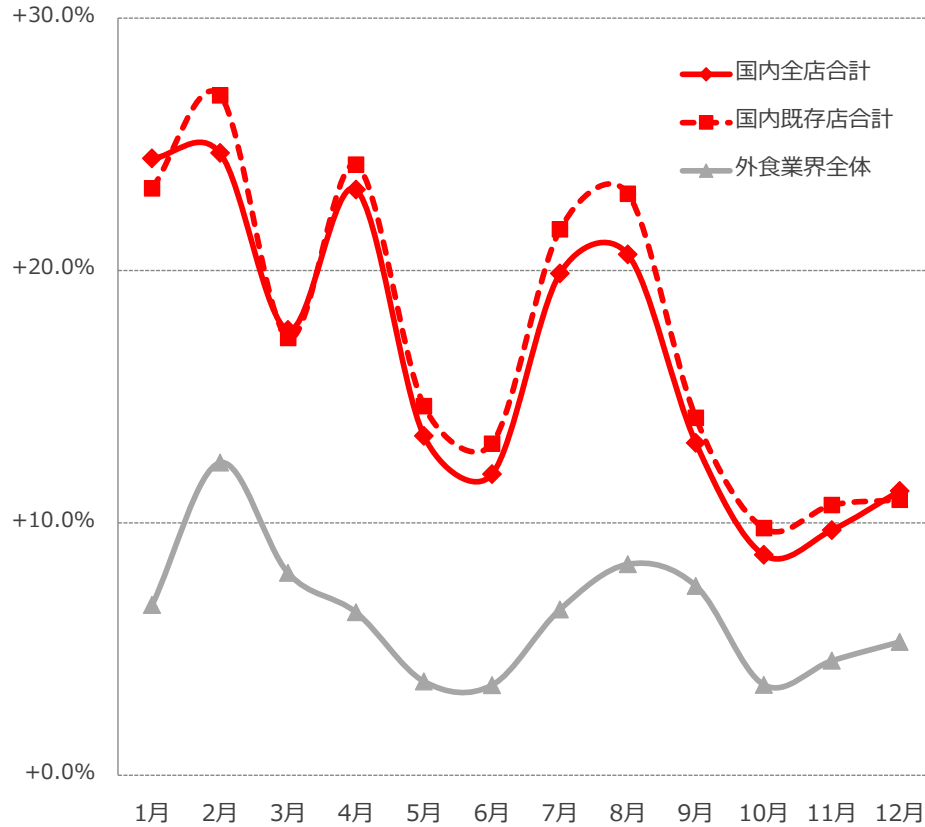


2023年12月期 通期	国内店舗売上高前年比
全店	+23.7%
既存店	+24.9%

2023年 主な出退店
2月「ラ・ボエム パスタフレスカ 則武新町」閉店

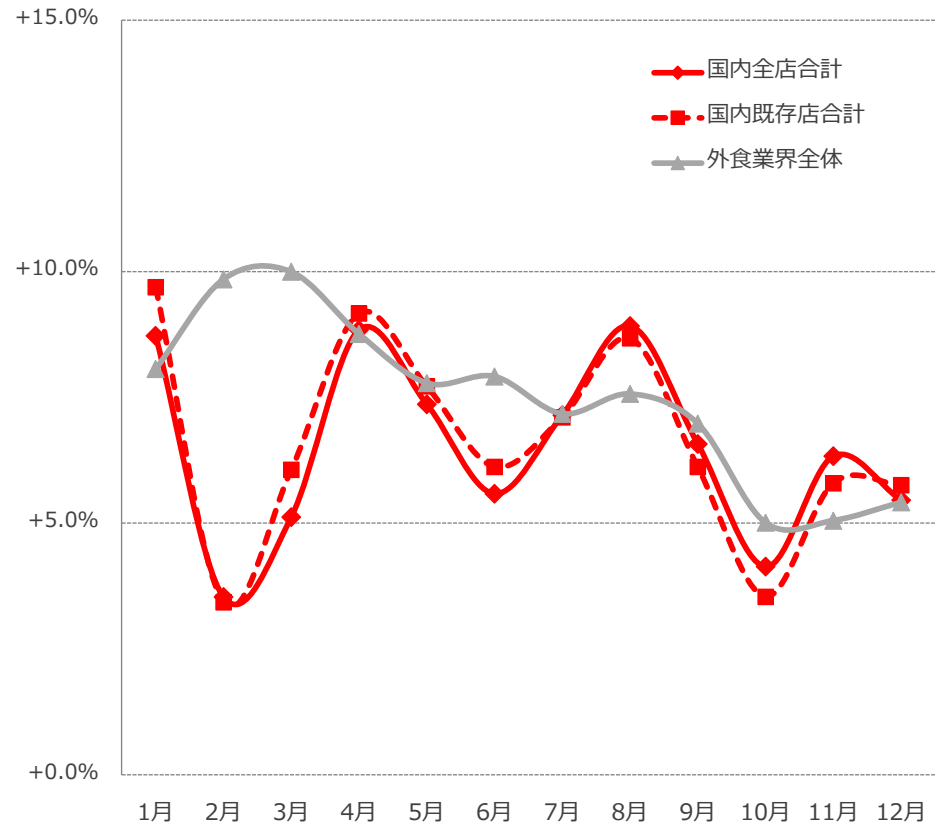
(国内) 2023年 通期 客数・客単価の前年対比率 月次推移

客数



2023年12月期 通期
全店+16.1% 既存店+17.3%

客単価



2023年12月期 通期
全店+6.3% 既存店+6.4%

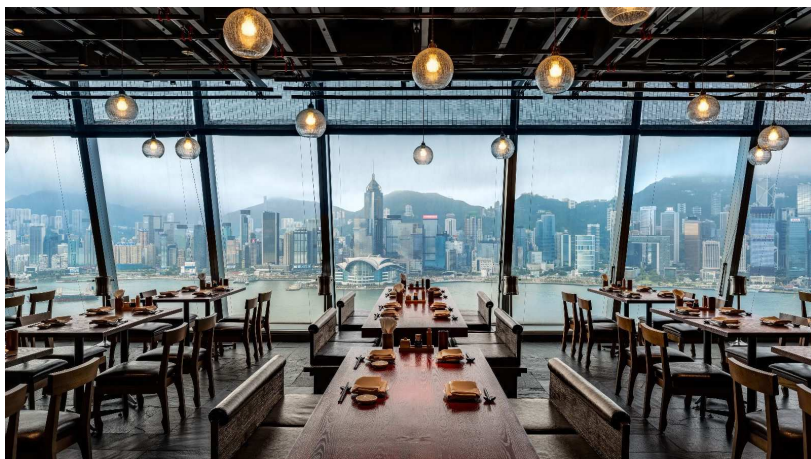
※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。

2023年 出退店等

- 1月 「権八香港 (One Peking)」 F C 2号店オープン
- 2月 「ラ・ボエムパスタフレスカ名古屋則武新町」閉店
- 3月 「フードコロシウム那須ガーデンアウトレット」改装オープン
- 8月 「権八ドバイ」 F C店閉店 (コロナ後も苦戦が続き契約終了)

直営店：出店0 閉店1 改装 ⇒ 期末店舗数 国内43店舗、米国2店舗

F C店：出店1 閉店1 ⇒ 期末店舗数 権八香港2店舗、権八上海1店舗



権八香港 One Peking (香港2号店)



フードコロシウム那須ガーデンアウトレット

(国内) 業態別業績

(単位：百万円)		2022 通期実績 (利益率)		2023 通期実績 (利益率)		前年比
ラ・ボエム 15 店舗 (前年▲1)	売上高	2,444		2,718		+11.2%
	営業利益	283	11.6%	351	12.9%	+1.3pt
ゼスト (タコファナ) 5 店舗 (前年±0)	売上高	323		405		+25.5%
	営業利益	▲23	▲7.4%	20	5.1%	+12.5pt
モンスーン カフェ 9 店舗 (前年±0)	売上高	1,641		1,901		+15.8%
	営業利益	154	9.4%	267	14.0%	+4.6pt
権八 7 店舗 (前年±0)	売上高	1,919		2,970		+54.8%
	営業利益	317	16.5%	722	24.3%	+7.8pt
Dinner 4 店舗 (前年±0)	売上高	860		903		+4.9%
	営業利益	55	6.4%	138	15.4%	+8.9pt
那須フードコート その他 3 店舗 (前年±0)	売上高	351		430		+22.4%
	営業利益	9	2.8%	53	12.5%	+9.7pt
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲659	-	▲766	-	-
合計 43 店舗 (前年▲1)	売上高	7,542		9,330		+23.7%
	営業利益	137	1.8%	786	8.4%	+6.6pt

既存店：売上高+24.9% 客数+17.3% 客単価+6.4%

■ラ・ボエム (既存店売上 +12.7%)

お台場、白金、浜松町、麻布十番など商業施設や都心店舗が伸長。則武(名古屋)2月閉店、ペントハウスのコストを当期フルに抱えるも、増収増益。

■ゼスト&タコファナ (既存店売上 +12.8%)

小型店のタコファナティコ3店舗が黒字化に貢献。ゼスト業態は代官山が黒字化、お台場は赤字縮小。

■モンスーン (既存店売上 +15.8%)

9店舗中5店舗が商業施設内にあり、中でも首都圏商業施設にある大型店の回復が増収増益に寄与。

■権八 (既存店売上 +54.8%)

外国人に認知度が高く、インバウンド需要や宴会予約の復活を受け大きく増収増益。好調な2019年ラグビーワールドカップ開催年を上回る盛況ぶり。

■Dinner (既存店売上 +14.5%)

タブローズラウンジ(ミュージック&カクテル)とレガート(渋谷)が好調を維持。業態変更(ステラート→ペントハウス)による店舗減でコスト負担が軽くなり利益率が改善。

■那須フードコート他 (既存店売上+17.0%)

香港FC2号店開業&FC1号店の業績好調によるロイヤルティ収入増加と、ドバイFC閉店による加盟金一括計上が売上・利益にも直結。那須は改装休業が1か月間あるも増収に寄与。

■本部販管費

人件費の増加や、増収・キャッシュレス決済による信販料増加。

※店舗数前期末増減

ラ・ボエム：▲1 パスタフレスカ名古屋則武新町(2023年2月閉店)

(注) 2022年4月「L B 8 (Dinner)」から「ゼストキャンティーナ代官山」に業態変更

(注) 2022年9月「ステラート (Dinner)」から「ペントハウス(ラ・ボエム)」に業態変更。現在貸切営業のみ

(注) フランチャイズ店は上記店舗数に含めておりません。

(米国子会社) 業態別業績

(単位：百万円)		2022 通期実績 (利益率)		2023 通期実績 (利益率)		前年比
ラ・ボエム	売上高	790		752		▲4.8%
	営業利益	128	16.2%	98	13.1%	▲3.1pt
1212	売上高	1,225		1,007		▲17.7%
	営業利益	192	15.7%	94	9.4%	▲6.3pt
Settecento (新店準備中)	売上高	0	-	0		-
	営業利益	0	-	▲22		-
本部販管費	売上高	-	-	-		-
	営業利益	▲232	-	▲224		-
合計	売上高	2,015		1,760		▲12.7%
	営業利益	87	4.3%	▲53	▲3.1%	▲7.4pt
為替レート(USD/JPY)		132.70円		141.83円		

【参考】 (単位：千USドル)		2022 通期実績 (利益率)		2023 通期実績 (利益率)		前年比
ラ・ボエム	売上高	5,959		5,308		▲10.9%
	営業利益	964	16.2%	697	13.1%	▲3.1pt
1212	売上高	9,231		7,104		▲23.0%
	営業利益	1,449	15.7%	665	9.4%	▲6.3pt
Settecento (新店準備中)	売上高	0	-	0		-
	営業利益	0	-	▲158		-
本部販管費	売上高	-	-	-		-
	営業利益	▲1,754	-	▲1,585		-
合計	売上高	15,191		12,413		▲18.3%
	営業利益	660	4.3%	▲380	▲3.1%	▲7.4pt

■ラ・ボエム

第1四半期の天候不良で駐車場でガーデンダイニングが活かせず減収。ウエストハリウッド地区の最低時給が半年毎に引上げられ、下期には全米最高の最低時給\$19.08となり、労務費率悪化で利益圧迫するも、オペレーション見直しと段階的な価格改定で営業利益率2桁を維持。

■1212 (twelve twelve)

好評だった遊歩道(店舗前の公共エリア)での屋外(テラス)営業可能期間が終わり、営業面積の大幅縮小が響き減収。費用の圧縮に努めるも減益。

■新店セテチェント (Settecento)

リース料の発生、販促費・採用費などを計上。

【参考】為替の影響を排除したドルベースの業績

2023年の主な取り組み

国内：地道な取り組みの継続から環境好転を捉えて収益力アップ

サービス	<ul style="list-style-type: none">・新人教育マニュアルや動画コンテンツの拡充・ホスピタリティや向上心を養う各種コンテスト等の開催、切磋琢磨の環境づくり
メニュー	<ul style="list-style-type: none">・インバウンド向け付加価値商品の開発・深夜帯売上減対策で高価格帯ランチセットやノンアルコールドリンク・デザート強化
マーケティング	<ul style="list-style-type: none">・店舗における効果的なSNS活用の促進サポート（デジタルネイティブ世代の才能発掘）・Googleマイビジネスの有効活用
人材育成・制度	<ul style="list-style-type: none">・マネジメント業務の標準化とデジタル化で数値管理能力を底上げ・長時間労働是正の為に給与体系見直しやルール策定
コスト管理	<ul style="list-style-type: none">・本部：仕入れ見直し・直接買い付けの強化・店舗：売上予測と適正シフトや人件費の精査、日次売上とコスト把握で管理能力向上

米国：営業体制の再構築と成長投資へのチャレンジ

営業体制（1212）	<ul style="list-style-type: none">・屋外営業減少分を補うため、店内テーブル席増設やメニュー改定で集客に注力・自治体と交渉し、週末限定で一部エリアの使用許可を取り付け（下期）
費用コントロール	<ul style="list-style-type: none">・オペレーションを効率化し、少人数体制にすることで労務費増加に対応・エンターテインメント営業にかかる費用を圧縮
新店準備	<ul style="list-style-type: none">・ダウンタウンLA地区で希少なガーデン隣接立地の有効活用を企画・マネージャークラスの採用

V. 今後の取り組み

【2024年の取り組み】既存店の安定収益確保と成長投資

国内

- 全店収益化
- 那須 宿泊・飲食複合施設の立ち上げ
 - ✓ 郊外型（観光地含む）、アルコールに頼らない業態の構築
 - ✓ 夜の飲食需要を引き出す宿泊施設を併設
 - ✓ 旅行者・買い物客・近隣住民を惹きつける年間イベントの企画・実施
- 人材確保と教育
 - ✓ 正社員・アルバイト問わず社内における才能の発掘・登用の推進
 - ✓ マネジメントポジションの外部採用強化
 - ✓ 企業理念の共有と顧客満足度を上げるホスピタリティの徹底
 - ✓ 外国人スタッフの多い権八業態を軸に多様性とイノベーションを生み出す組織づくり
- 商業施設内店舗を除き、2024年1月より国内店舗は完全キャッシュレス化
 - ✓ 店舗運営の安全性と効率化（負担軽減）
 - ✓ サービス・エンターテインメント提供にフォーカスする
- 食材の海外現地調達への取り組み

米国

- 出店地域の人件費高騰や治安悪化を受け、営業施策見直しと徹底したコスト管理で立て直しを図る
- 新店の緻密な工事進捗管理とクオリティのコントロール
- 将来を見据えたマーケット調査（飲食事業に最適な進出エリア調査）

出退店

- 出店2：那須複合施設及び米国ロサンゼルスでの出店を計画
- 現時点での退店予定なし

【新店概要】 国内 宿泊・飲食複合施設

栃木県那須塩原市

敷地面積：10,779㎡（3,260.5坪）

建 物：鉄骨2階建1棟

延床面積2,894㎡（877坪）を予定

投 資 額：約16億円

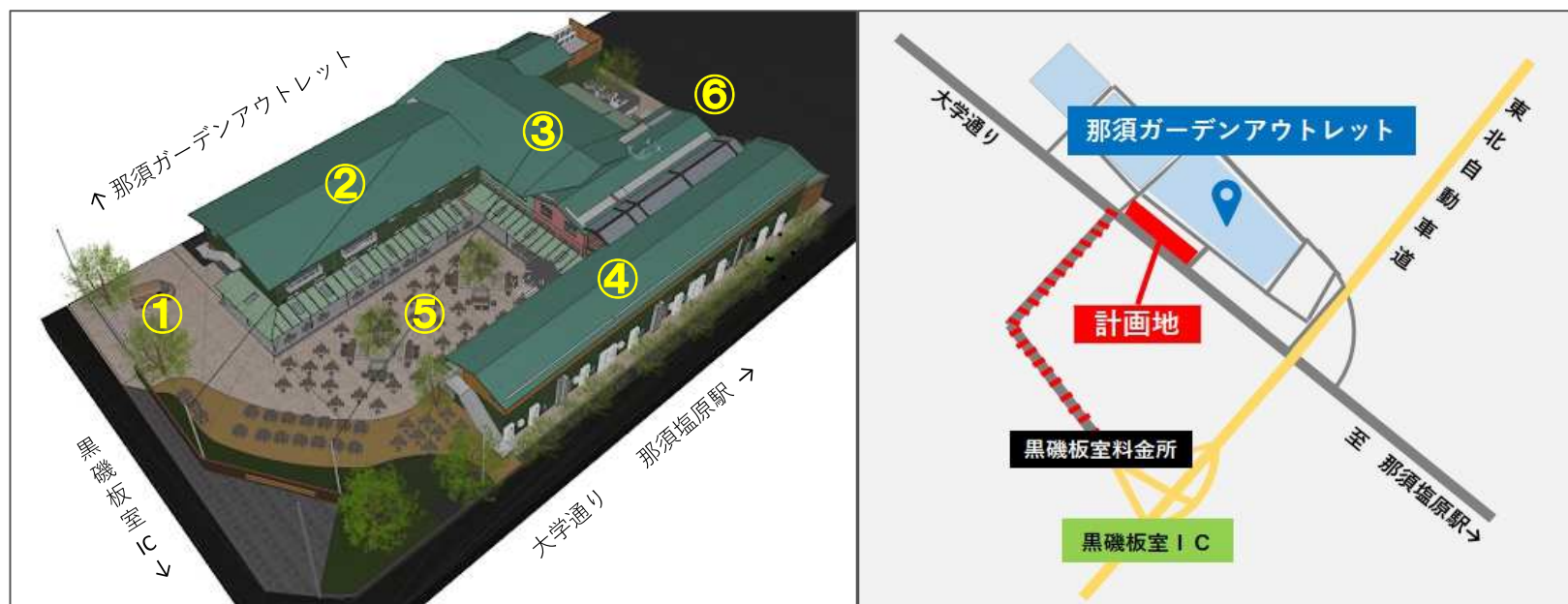
開業時期：年内を予定

施設概要：①エントランス、②③④ 1階はフルサービスレストラン&フードコートとお土産等の販売店舗を、2階にはカジュアルホテルを配置予定。⑤中庭、⑥駐車場側エントランス

立地特性：黒磯板室 I Cから数分、那須ガーデンアウトレット隣接、那須塩原駅からアウトレットまで送迎バス運行

大型施設の空間・業態・オペレーションづくりの経験・実績を活かして取り組む

『権八西麻布』、『モンスーンカフェ代官山』、『ゼストキャンティーナ恵比寿・世田谷』、『カフェラ・ボエム白金』、『モンスーンカフェたまブラーザ』、当社4業態からなるお台場のグリーンパサージュなど



【新店概要】 米国 『セテチェント (Settecento) 』

カリフォルニア州ロサンゼルス郡 ダウンタウン地区 ※中心部のオフィス・ビジネス街

“全米ロマンチックレストラン 100” に選ばれた『ラ・ボエム』の魅力的な“ガーデンダイニング”の運営ノウハウを投入

敷地面積：敷地 6,146 sf (144坪) ※③ガーデン含まず 、建物 4,167sf (117坪) ※1F 89坪、B1 (厨房) 28坪

投資額：約 \$ 5 million (予定)

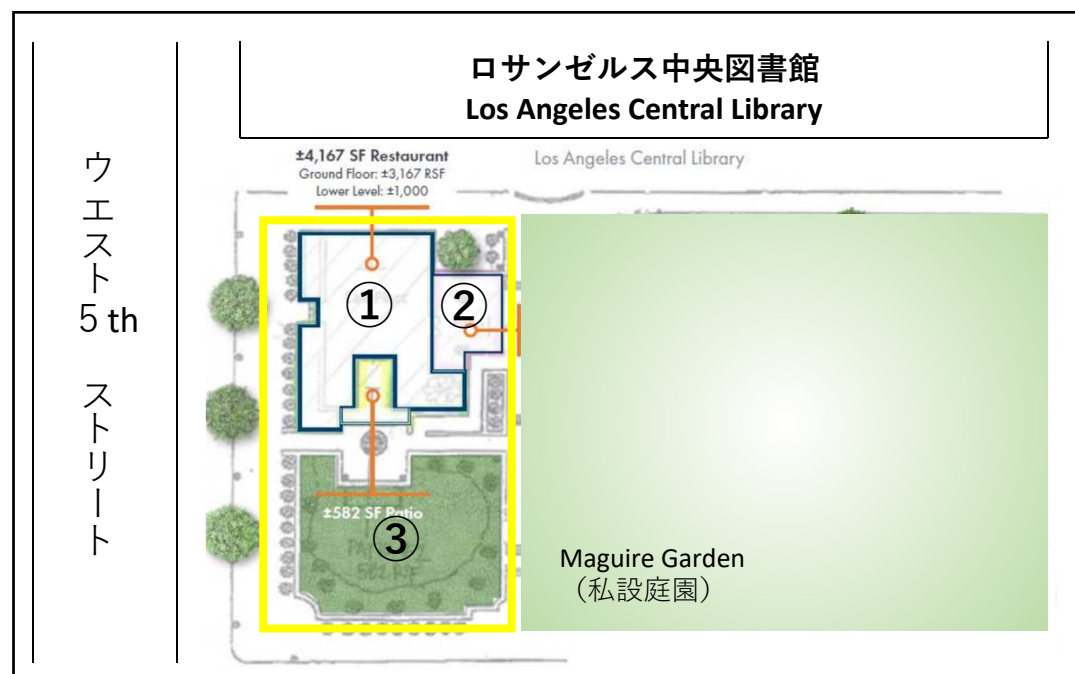
開業時期：2024年夏頃を予定

施設概要：①屋内、②テラス、③ガーデンパティオの3スペースで営業予定 (イタリアン業態)

席数：①屋内66席、②③ガーデンテラス144席、計210席 (予定)

広いパティオを活かした訴求力ある店舗づくりで集客を目指す

立地特性：コンクリートジャングルが多いダウンタウン LA で、広大な私設庭園に隣接した他にはない好立地。ランドマークとなるロサンゼルス中央図書館に隣接 (駐車場あり)、周辺にはオフィスビル、ホテル、高速道路入口あり。



③ガーデンパティオ (イメージ)

參考資料

2023年12月期 通期累計 赤字店舗一覧

	店舗名	2023年 通期累計		備考
		売上高	営業利益 (販管費配賦前)	
1	タブローズ (代官山)	87,595	▲28,332	
2	カフェ ラ・ボエム ペントハウス (白金台)	30,172	▲25,341	※1
3	ウェディングサロン	47,919	▲8,059	
4	モンスーンカフェ ららぽーと愛知東郷	61,780	▲7,771	
5	バルティザン ブレッドファクトリー (南青山)	33,488	▲6,814	※2
6	ラ・ボエム パスタフレスカ 名古屋則武新町	488	▲5,768	2月末 閉店
7	ゼスト キャンティーナ お台場	107,632	▲1,849	
8	ラ・ボエム パスタフレスカ RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋)	53,499	▲1,642	

※1 4月1日より当面の間、ご予約、婚礼のみの営業となっております。

※2 店頭販売部門のみ（製造部門除く）

(単位：千円)

(連結) 展開コンセプト

計45店舗 (2023.12月末)

カフェ ラ・ボエム	モンスーン カフェ	権 八	ゼスト キャンティーナ	ディナー店	※ F C ・その他 業 態
   イタリアン	   エスニック	   創作和食 & 寿司	   テックスメックス	 海外 (米国)    5店舗	 海外 (米国) 1212   4店舗
※ 2,718百万円	※ 1,901百万円	※ 2,970百万円	※ 405百万円	※ 1,656百万円	※ 1,438百万円
※ 24%	※ 17%	※ 27%	※ 4%	※ 15%	※ 13%

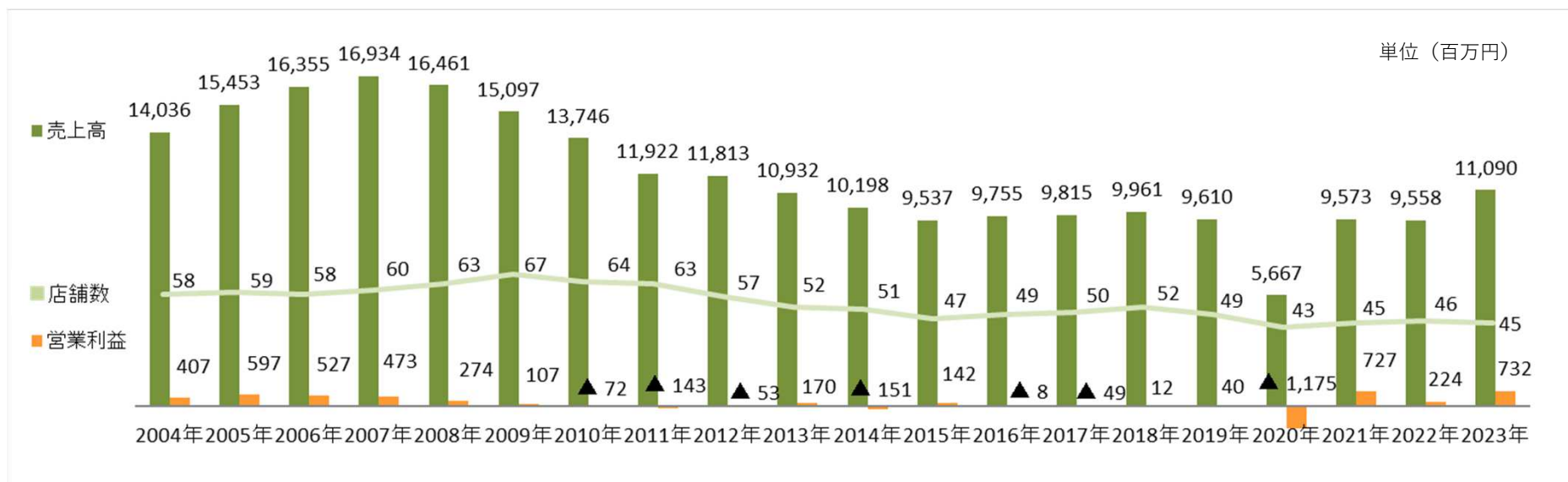
※上記金額&シェアは、2023年12月期の連結売上高とそのシェア(%)を記載しております。

※コンセプトの「FC」は、「FOOD COLOSSEUM (フードコート業態)」の略です。

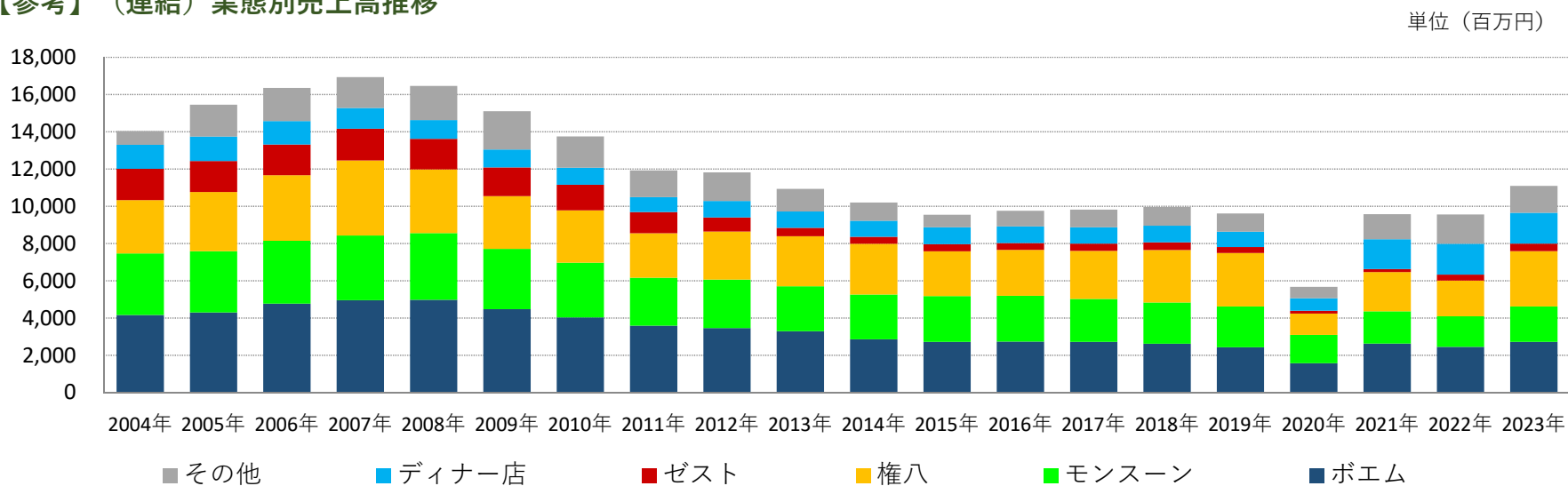
※「FC・その他業態」に含まれる「ウエディングサロン」「フランチャイズ店」は店舗数に含めておりません。

★『権八』(西麻布店)は、小泉元総理とプッシュ元米大統領との会談場所として、また映画「キルビル」の舞台のモデルとして、広く外国人に認知されている業態です。

(連結) 売上高・営業利益推移

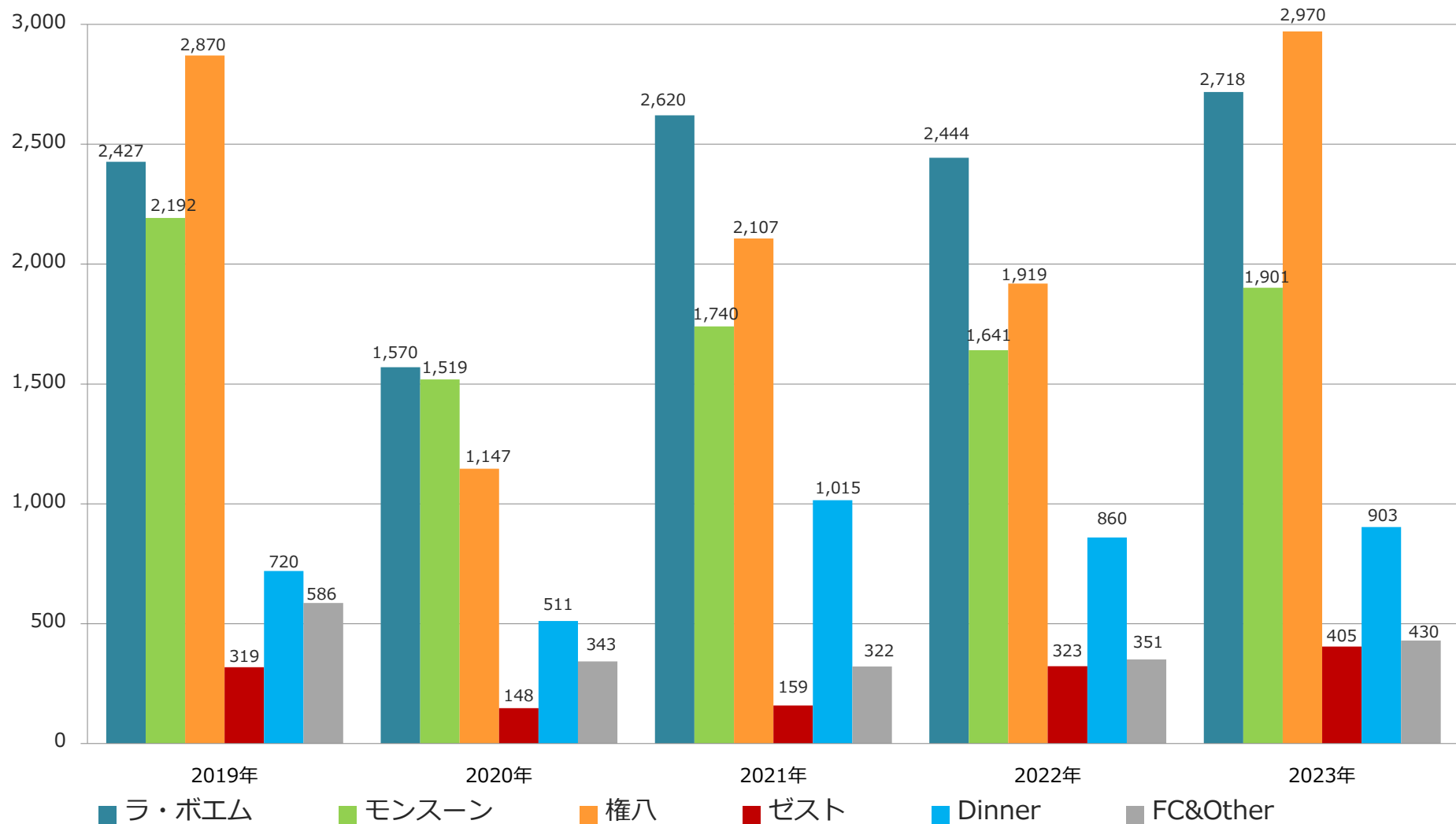


【参考】 (連結) 業態別売上高推移

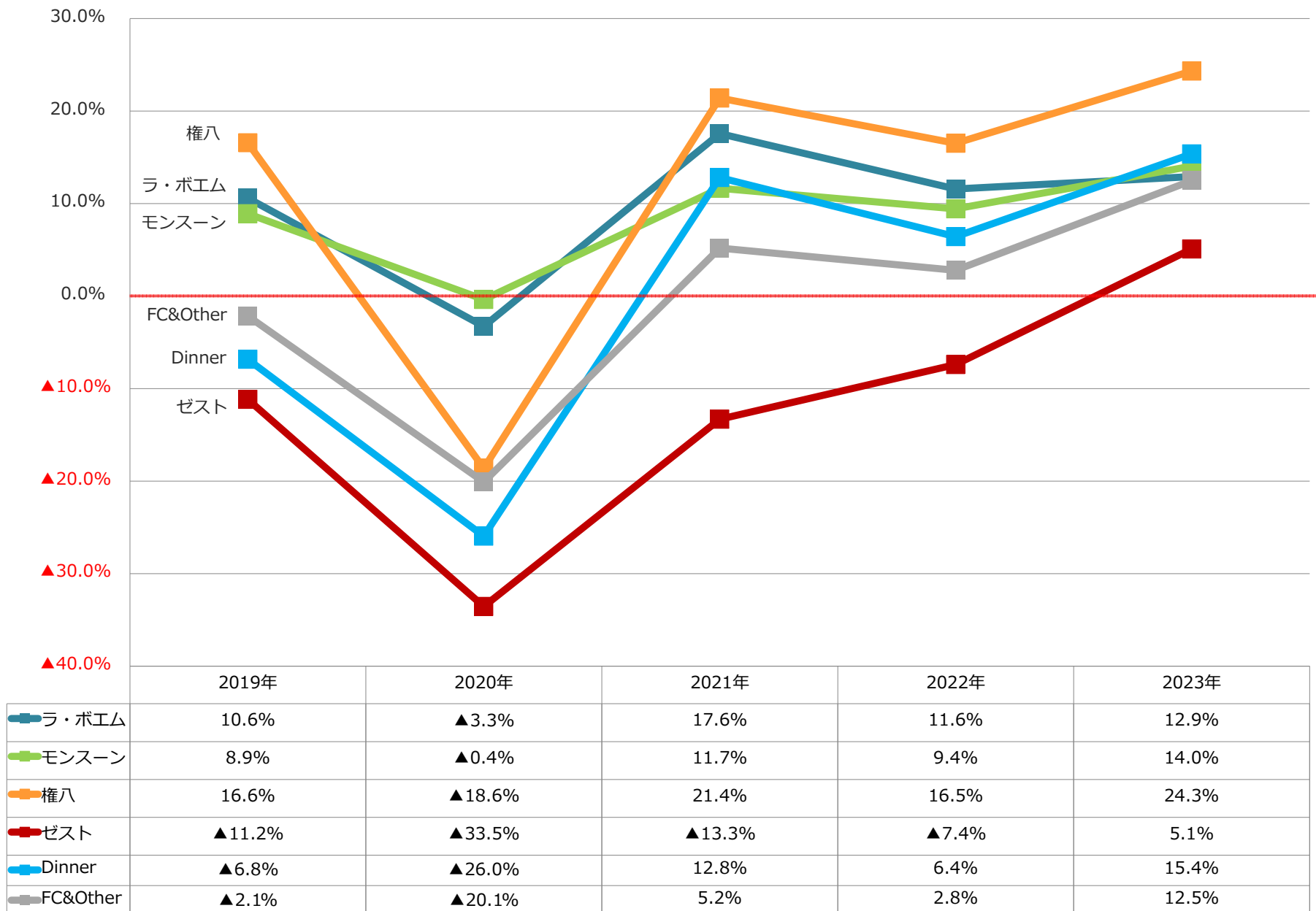


(国内) コンセプト別 売上高5期推移

(単位：百万円)



(国内) コンセプト別 営業利益率 5期推移



(国内) 損益計算書概要

2023年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト (タコファナ)	モンスーン カフェ	権八	Dinner	那須フードコー ト・その他	本部 販管費
売上高	9,330	2,718	405	1,901	2,970	903	430	-
売上原価	7,692	2,321	373	1,600	2,205	759	370	62
売上総利益	1,637	397	32	301	765	143	60	▲62
販管費	850	46	12	33	42	4	6	704
営業利益	786	351	20	267	722	138	53	▲766
営業利益率	8.4%	12.9%	5.1%	14.0%	24.3%	15.4%	12.5%	-
期末店舗数	43	15	5	9	7	4	3	-
2022年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト (タコファナ)	モンスーン カフェ	権八	Dinner	那須フードコー ト・その他	本部 販管費
売上高	7,542	2,444	323	1,641	1,919	860	351	-
売上原価	6,665	2,119	337	1,458	1,572	791	335	50
売上総利益	876	325	▲13	183	347	69	16	▲50
販管費	739	42	9	28	29	13	6	608
営業利益	137	283	▲23	154	317	55	9	▲659
営業利益率	1.8%	11.6%	▲7.4%	9.4%	16.5%	6.4%	2.8%	-
期末店舗数	44	16	5	9	7	4	3	-

(単位：百万円)

※Dinner：「タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェ レガート」「リグニス」

※その他：「デカダンスデュ ショコラ」「バルティザン ブレッド ファクトリー」の他、ウエディングサロンの売上高や海外フランチャイズ店からのロイヤルティ収入が含まれます。なお、ウエディングサロンやフランチャイズ店は店舗数に含めておりません。

※店舗数前期末増減

ラ・ボエム：▲1 パスタフレスカ名古屋則武新町（2023年2月閉店）

(注) 2022年4月「L B 8 (Dinner)」から「ゼストキャンティナー代官山」に業態変更

(注) 2022年9月「ステラート (Dinner)」から「ペントハウス(ラ・ボエム)」に業態変更。現在貸切営業のみ

(米国子会社) 損益計算書概要

2023年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	1212 (twelve twelve)	Settecento	本部販管費
売上高	1,760	752	1,007	0	-
売上原価	1,589	654	913	22	0
売上総利益	170	98	94	▲22	0
販管費	224	0	0	0	224
営業利益	▲53	98	94	▲22	▲224
営業利益率	▲3.1%	13.1%	9.4%	-	-

2022年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	1212 (twelve twelve)	Settecento	本部販管費
売上高	2,015	790	1,225	0	-
売上原価	1,695	662	1,032	0	0
売上総利益	320	128	192	0	0
販管費	232	0	0	0	232
営業利益	87	128	192	0	▲232
営業利益率	4.3%	16.2%	15.7%	-	-

(単位：百万円)

※上記は業績管理用の決算整理前数値です。

会社概要

社 名	株式会社グローバルダイニング (GLOBAL-DINING,INC.)
本 社 所 在 地	東京都港区南青山七丁目1番5号
創 業	1973年10月5日
資 本 金	44百万円
事 業 内 容	首都圏を中心とするレストラン経営
代 表 者	代表取締役社長 長谷川 耕造
従 業 員 数	単体172名（臨時雇用者724名） 連結188名（臨時雇用者796名） ※2023年12月末時点
子 会 社	GLOBAL-DINING, INC. of CALIFORNIA （LAで2店舗運営）
主要取引銀行	三菱UFJ銀行、静岡銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、日本政策金融公庫、商工中金

上 場 市 場	東京証券取引所 スタンダード市場【コード：7625】
上 場 日	1999年12月7日
発行済株式総数	10,385,800株
株 主 数	3,570名 ※2023年12月末時点
事 業 年 度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
株式の売買単位	100株

website : <https://www.global-dining.com/>

※2024年1月末時点

注意事項

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

Disclaimer

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the company's expectations or beliefs concerning future events. The company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining, Inc.



<資料に関するお問い合わせ>
総務管理グループ
(IR) 050-5444-9868
stock@global-dining.com